

はこじ郎の ぶらぶら ジオ日記



先月から南足柄市のジオサイトをお散歩してるよ。

今回は、ジオサイト「^{やぐら}矢倉岳」を紹介するね。

箱根の方からは見えないけれど、「矢倉岳」は足柄平野から見るとちょうど富士山と並んで見える、おにぎりの形をした山だよ。矢倉岳は箱根火山とは違い足柄山地の一部で、標高は870メートルの山なんだ。

先月紹介した「^{はまぐさ}蛤沢周辺」で出てきた「足柄層群」という地層の中に、約115万年前にマグマが入り込んだんだよ。そのマグマは噴火をしないで、そのまま地中深くで冷え固まったんだって。このようにしてできた岩石を「^{しんせいがん}深成岩」と言い、矢倉岳は深成岩体でできているんだよ。ゴマ塩のような模様でとても硬く、矢倉岳の麓の矢倉沢地区では、石垣にも使われているんだ。

その後、深成岩体はプレートの圧力によって隆起して矢倉岳ができたんだけど、実は、115万年前にできた深成岩体が標高870メートルまで隆起している山は、世界的に見てもすごく珍しいんだよ。

登山客にも人気がある山で、麓の矢倉沢からは2時間ちょっと、足柄峠からも1時間と少しで登れるよ。秋には矢倉沢地区で「ざる菊祭り」も行われ、とっても賑やかになるよ。

秋になったら、おいらもハイキングに行くんだ！

矢倉沢へは、伊豆箱根鉄道大雄山線「大雄山駅」から箱根登山バスで地蔵堂行11分「矢倉沢」バス停下車だよ！ みんな、遊びに来てね！



南足柄市ふるさと大使「よいしよの金太郎」

**箱根ジオパーク・サポーター講座
第2回外国人が見た明治の箱根**

緑の木々に囲まれた山小屋でお茶を飲みながら、明治時代の箱根に思いを馳せてみませんか？ 今回は、町立郷土資料館鈴木康弘館長をお招きし、「外国人が見た明治の箱根」についてお話しいただきます。みなさまのご参加をお待ちしております！

日時 9月28日(木)17時～18時30分
場所 山小屋 佐藤(元箱根103-450)

対象 どなたでもご参加いただけます。

定員 16名

参加費 200円

申込方法 事前予約制(締切9月20日) ※参加者多数の場合は抽選とさせていただきます。

申込先 住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、箱根ジオパーク推進協議会事務局に電話、メールで申し込んでください。

照会先 箱根ジオパーク推進協議会事務局 ☎85-9560

☐ kikakuka@town.hakone.kanagawa.jp

その他詳細は箱根ジオパークのホームページをご覧ください。
http://www.hakone-geopark.jp/

**帝京大学観光経営学科
「中学生ガイドがご案内！
小田原城体感ツアー」**

小田原エリアを代表するジオサイト「小田原城」。その小田原城に秘められたカラクリを小田原市立城山中学校の生徒たちが日本語・英語・手話でご案内します。小田原の地元産品や箱根ジオパーク認定特産品の試食を用意して待っています！

日時 9月23日(土)10時～

集合 小田原城 馬出門前
コース 馬出門→銅門→常盤木門→本丸広場

※所要時間1時間30分程度

定員 日本語コース30名、英語・手話コース各20名(応募者多数の場合は抽選)

主催 小田原市立城山中学校
申込方法 9月20日(必着)までに、参加者の氏名、連絡先を明記のうえ、電話、FAX、メールにて申し込んでください。

詳細は、箱根ジオパークのホームページを確認してください。
http://www.hakone-geopark.jp/

☐ 予約・問い合わせ先 箱根ジオパーク推進協議会事務局(町企画課内) ☎85-9560 / FAX 85-7577

☐ kikakuka@town.hakone.kanagawa.jp

9月21日(木)～30日(土)は秋の全国交通安全運動実施期間です 「安全は 心と時間の ゆとりから」 「高齢者 模範を示そう 交通マナー」

- 交通事故を防ぐため、次の点に注意しましょう。
- 子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
 - 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
 - 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - 飲酒運転の根絶
- さまざまな場所に危険が潜んでいることを十分に認識して、交通事故防止に努めてください。

9月30日(土)は
「交通事故死ゼロを目指す日」
です

箱根町『園・小・中学校一貫教育(分離型)』

知育編

「大学入学共通テスト」(仮称)を導入することが文部科学省から発表され、2020年度から大学入試の問題が変わります。

これに伴い、高校入試問題や授業も大幅に変わることが予想されます。

試験教科・科目は変わりませんが、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価していこうという考えがあります。つまり、記述式の問題により思考力や表現力を問い、学んだ知識を実生活に即した場面でのように活用できるのが求められるようになるのです。

平成28年度実施の全国学力学習状況調査では、「目的や意図に応じ、図表やグラフを用いて、自分の考えを書く」、「解釈したことについて、根拠を明確にして書く」などの、「**書くチカラ**」が課題として挙げられました。

小・中学校の授業を参観すると、盛んに発言しながら授業に参加している児童・生徒がいます。一方、発言する機会は少ないものの、じっくりと考えながら授業に参加している児童・生徒もいます。学習の振り返りを書くことで、学びの深まりを見ることが出来ます。

「箱根一貫教育学力向上推進部会」でも今年度から『9年間を通した「書く」指導のあり方と指導法の研究』を行っています。

小学校段階では、書くことを楽しみ、たくさん書けるような力を育みたいところです。中学校段階では、わずか数行の短い文章でも、読み手を意識して簡潔にまとめて書く経験を積み重ねていくことが大事です。

子どもたちが、将来、自分の希望の道を切り開いていけるためにも、幼少期から「**書くチカラ**」を培っていくことができるよう、是非、ご家庭でも心がけてみてください。

★神奈川県教育委員会では、自分の気持ちを文章にする「1日1行」の文章を書く習慣を身に付けることを提案しています。



県ポスター▶



一行日記▶